

ご意見用紙

玄海原子力発電所に関する県民説明会

※この用紙は、記入後エントランスホールの回収箱にご投入ください。
※本日、回収箱への投入が難しい場合は、裏面記載の県内各地に設置しています県政提案箱にご投函いただくことも可能です。

* なお、ご記入の前に裏面の〈お願い〉をお読みください。

テーマ	★該当する項目をチェックしてください（複数選択可）。 <input checked="" type="checkbox"/> エネルギー政策に関すること <input checked="" type="checkbox"/> 原子力安全対策に関すること <input checked="" type="checkbox"/> 原子力災害対策に関すること <input type="checkbox"/> その他
「福島第一原発事故から学ばなければ教訓として、極めて大切なことの一つ」について、先日（2月21日）の説明会で発言したかったこと。	
電力会社や政府は、原発の誘致・建設・運転やプルーサーマル導入などに都合の悪い意見などを排除し、安全でないものを安全だと言い、巨費を投じて（財源は税金や電気料金）宣伝をしていました。これらのことを反省し、疑問・質問・慎重な意見、反対意見にも、耳を傾け、自分の考えに間違いはないか、比較検討する態度は十分か、公正と言えらるか、かえりみながら、事をすすめることの大切さ、これが大切な教訓の一つではないかと考えています。	
東日本大震災が発生する2年前の11月だったと思います。原発の危険に反対し住民の安全を守るために運動している私たちの全国の仲間が、集会をした後、政府と電気事業連合会に、申し入れと交渉をしました。当時、歴史学者・地質学者たちが、歴史書や地質について調査研究した中から、大地震・大津波が数百年の間を叩いて、くり返し発生していること、その危険が迫っていることを発表していました。それらのことを理解し、危険を感じた福島県の代表をはじめとして、政府にも電気事業連合会にも危険性や緊急対策を要求していました。女川原発は、津波対策をしていました。不十分でしたが、福島第一原発のような大災害にはなりませんでしたが、東京電力は、大津波の数日前に、対策について協議を始めていたという報道がありました。住民の要求を聞き、要求に応える態度は、極めて不十分なものでした。	
政府や電力会社は「教訓にして」と言いますが、どのような教訓なのか、はっきりしません。「教訓」という言葉を隠れ蓑にして、本当の仕事をしていないのではないかと感じています。いかがでしょうか。	

会場名に○をつけてください⇒

唐津・武雄・佐賀・伊万里・鳥栖

所属受付印